



今やるべきこと（その2）

勉強の毎日を送っていると、時間の過ぎてゆく早さに圧倒されることだろう。だから、逆に昔の日々が自然と頭の中に浮かんで来て、1年生のあの日のことや、2年生のこんな事件、そして、3年生でのあの場面、部活の一コマ……そんなことがひどく懐かしく感じられることがあるに違いない。そして、特に勉強に関しては「もう一度一年生からやり直せたらなあ…」と思っている諸君も多いことだろう。しかし、残念ながら時間は逆向きには進まないわけだから、前を向いて前進を続けるしかない。そういう「正念場」を今迎えているわけである。

この時期の学級通信では、よく「家族との時間を大切にしてください」ということを書く。具体的には、大掃除やお節の準備を手伝ったり、家族でつどう場面に顔を出したり…といったことに前向きになりなさいということなのだが、こと今年に限っては、「自分の時間を大切にしてください」ということ「も」強調しておきたい。

もちろん、年末・年始のこの時期に、家族の重みに思いを致すことは大切なことだし、家族の一員として家族の役に立つことも大切なのだが、今年だけは家族に「我が輩の年末は三月である！」と宣言して、「自分の時間」を徹底的に有効に使ってほしい。

*

有効活用の第一は、もちろん勉強することに決まっているのだが、出願の準備（願書の記入や写真の添付、受験料の払い込みなど）も進んでいるだろうか。年明けの1月8日（木）始業集会の後、申請した数の調査書を配布するが、その時にはすでに出願期間に入っている大学もある。調査書を入れたら、すぐにでも郵送できるという状態にしておこう。

センターの受験票も配布したが、とりあえずセンターの受験会場もはっきりした（文系＝国士舘世田谷、理系＝東大駒場）ので、ぜひこの休みの間に（他大学の下見も含めて）、会場に出かけてみてほしい。ちなみに、試験と同じ曜日の同じ時間帯に出かけるのが望ましいことは言うまでもない。特にセンターは土・日に実施されるので、電車やバスのダイヤも土・日のものを確認する必要がある。逆に私立大学など平日に入試が行われる場合は、平日のラッシュと重なることもあるわけだから、経路や乗り換えだけでなく、実際の混雑状況も確かめておきたいものである。さらに、例えば国士舘にしても東大駒場にしても、どちらも広いキャンパスだから、時間通りに大学の入口に到着したとしても、実際の試験会場の教室まではさらに時間がかかるということも考えられる。キャンパス内に立ち入ることはできないだろうが、門のところでその大きさを感じられれば、何分前に到着しておくべきか想像できるに違いない。

*

センターまであと一ヶ月を切った。しかし、二次試験まではまだ二ヶ月もある二ヶ月といえは1年の「6分の1」である。最近の調子で勉強すれば、まだまだ力が伸びるに違いない。倦まずたゆまず前進である。その際、不得意科目を諦めることのないように。もちろん、充分時間をかける余裕はないだろうが、かといってまったく手をつけないでいるのはよろしくない。総合点で合否が決まる以上、不得意科目での失点を減らすことは重要なポイントなのである。伸びないにしろ落とさない、このことも念頭において「自分の時間」を大切にしよう。